



SQUARE

スクウェア

季刊会報

第 91 号

2010年9月1日

Narashino International Association (NIA)

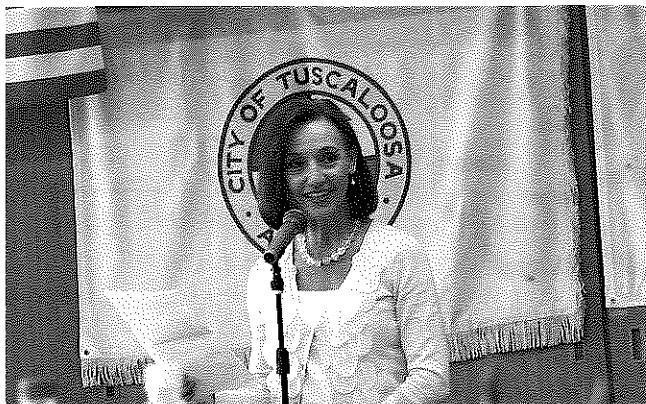
**平成 22 年度(2010 年度)タスカルーサ市高校生訪問団を迎えて****今井洋子 (前姉妹都市部会長)**

平成元年（1989年）から始まった、習志野市のNIAへの委託事業であるこのプログラムも今回で12回目となりました。約6か月前から市役所まちづくり推進課と連携しながら前回の反省を元に会議を重ね、準備して参りました。毎回、訪問団を受入れて、思うことは、如何にして両市の高校生や市民、それに関わる人々が上手くコミュニケーションをとる事ができるかが、重要な課題であるということでした。こうした観点から今回のテーマを“コミュニケーション”と決めました。

彼等はただ単に日本に観光旅行に来る訳ではないのです、日本の家庭に滞在し、寝食を共にして、その中で日本文化に触れる、最も手っとり早く、しかし、困難な異文化体験をすることでした。

今回、新しくプログラムに入れたものは、①「千葉工業大学を訪問すること（日本の新しい文化であるロボットと火星探索を学ぶ）」、②「日本有数のプラント輸出をメインとする東洋エンジニアリング株式会社を訪問すること」、③「プロのアメフトチーム・The OBIC Seagullsと交流すること」、④「両市高校生及び、オーストラリアからの留学生などの青少年が一堂に集まり4つのグループに分かれ英語でディスカッションを行うこと」でした。ディスカッションのテーマは、12以上ありました。例えば「アメリカでは授業中に飲食すること、さほど問題はないが日本ではどうだろう、またそれをどのように思うか」、等でした。山田前会長提案の両市青少年対話交流プログラムはタスカルーサ姉妹都市委員会の専務理事であるリサ・キーズ氏から次回も是非継続して欲しいといわれました。同氏はまた、今迄のプログラムの中で2010年度の交流は最も素晴らしいとも言っておりました。

6月21日、彼等はまた必ず習志野に戻ってくると言って本国へ旅立って行きました。私の6年間の姉妹都市交流担当の任務が終了した日でもありました。国際姉妹都市の最終目標は、“世界平和の達成”に帰する事は言うまでもありません。これを踏まえて多忙ながらも大変充実した愉快な年月を送ることができたことを、この紙面をお借りして皆々様に感謝申し上げます。



Tuscaloosa Students Thrilled to Visit Narashino

Lisa Keyes, Executive Director of Tuscaloosa Sister Cities Commission

It was a whirlwind and fascinating visit to Narashino, Japan for 12 Tuscaloosa student delegates visiting Tuscaloosa's Asian sister city.

The students, representing Bryant, Central and Northridge High Schools, lived with host families, participated in cultural and educational programs with Narashino students and citizens, and learned about all things Japanese during their June 9-21 exchange. During the exchange, the students visited Tokyo, Yokohama, Mt. Fuji, and spent time developing new friendships with students at Narashino High School. The delegates also spent a day learning about robotics at Chiba Institute of Technology, visited the Toyo Engineering Corporation, and met with members of the professional football team, the OBIC Seagulls during their stay. Students commented to coordinators at from the City of Narashino, and Narashino International Association, "This exchange changed my life!"

Participants in the exchange were: Callan Burns, Evan Chalmers, Dylan Coyle, Julian Diaz, Doug Hamilton, Shanquella Jones, Beth Lindly, Nick Pappas, Lyndsey Pugh, JoVonda Robinson, Amani Salih, and Chelsea Shepherd. Ms. Kathie Gascoigne and Lisa Keyes were the chaperones for the exchange.

The Tuscaloosa Sister Cities Commission wishes to thank Mayor Araki, City of Narashino, the Narashino International Association, Narashino Board of Education, Narashino High School, all host families and citizens of Narashino for making this exchange truly extraordinary!



わくわく!! ドキドキ!!

タスカルーサ高校生、習志野訪問

リサ・キーズ専務理事
タスカルーサ姉妹都市委員会

タスカルーサのアジア姉妹都市習志野市への訪問は、12名のタスカルーサ高校生にとって駆け足ではあったけれど素晴らしい旅でした。

彼等はポール・W. ブライアント高校、セントラル高校、そしてノースリッジ高校の代表で、日本の家庭に滞在し、習志野市の学生や市民の皆さんと文化的かつ教育的なプログラムに参加して、6月9日～21日までの12日間の交流で日本について多くを学びました。この間、学生達は東京、横浜、富士山へ行き、習志野高校では友情を深めました。また、千葉工業大学でロボットについて学び、東洋エンジニアリング株式会社を訪問し、プロのアメリカンフットボールのチームであるオービックシーガルズのメンバーとも交流しました。生徒達は習志野市役所とNIAのコーデネーターに「この交流プログラムは私たちの人生を変えた！！」と感想を述べました。

今回の交流参加者はキャラン・バーンズ、エバン・チャーマーズ、ディラン・コイル、ジュリアン・ディアツ、ダグ・ハミルトン、シャンクエラ・ジョンズ、ベス・リンドリイ、ニック・パパス、リンゼイ・ビュー、ジョバンダ・ロビンソン、アマニ・サリ、チャエルシア・シェパードと引率者にキャシー・ギャスコイン先生とリサ・キーズでした。

タスカルーサ姉妹都市委員会は荒木習志野市長、NIA、教育委員会と習志野高校、ホストファミリーの皆様と習志野市民の皆様にこの実に並はずれた素晴らしい交流の機会を下さったことに心よりお礼申し上げます。

(訳: Mrs. S. Sprague)

ホストファミリーの感想

ホストファミリーを引受けた

東郷 仁美

受け入れたのは高校1年生のダグ・ハミルトンです。ダグは好奇心旺盛で納豆や味噌汁、ラーメン、お好み焼きなど初めての食べ物もおいしいとよく食べ、食べ終わるといつも「また太っちゃうよ」とお腹をさすってました。漢字やひらがなを練習して見せてくれたり、滞在中、時刻は日本語で話すようになり一生懸命な意欲が伝わってきました。

我家には大学3年生の長男と高校3年生の長女がいます。娘は英語の宿題をちゃっかりダグに手伝ってもらい先生から良くできてると褒められたと話すと人の良いダグは更に張り切って教えてくれてました。宿題が終わるとはやくち言葉を日本語と英語で教えあい、つかえる度大爆笑でした。すっかり仲良くなった娘はダグが習志野高校訪問の時に“日本の若者はびっくりした時「マジで！」と言うのよ”と教え、真面目に連発したダグは大受けだったそうです。

習志野高校生の感想

ダグとの出会いそしてアメリカでの英語研修へ

東郷 佑香

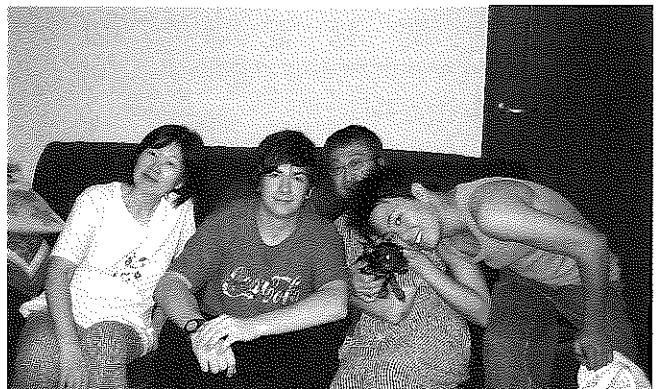
我が家では、一昨年もホストファミリーをしましたが、その時は緊張と恥ずかしさから全然会話をすることができませんでした。だから今年は私自身の英語力を少しでも上げたいと思い、母に頼んでまたホストファミリーをすることになりました。

ダグが家に来る日、私はとても緊張していましたが勇気を出して自己紹介をしました。私の下手な英語をダグは聞き取ってくれて笑顔で応えてくれたのを今でも覚えています。

ダグが来てからの日々は毎日英語漬けで最初は全然話せなかったけれど、だんだん話せるようになり英語を話すことが緊張から楽しさに変わっていきました。私の宿題を手伝ってくれたり、ダグに日本語を教えてあげたり、二人で早口言葉を教え合ったり、ダグが来てからの毎日は本当に楽しかったです。だから私とダグはすぐに仲良くなりました。

仲良くなるにつれて、お別れの日が近づいてくるのが寂しいなと思っていたら、7月9日から始まるタスカルーサでの英語海外研修の滞在先である私のホストファミリーがダグ家に決まって二人でハイタッチをして喜び合いました。

アラバマでの印象はとてもフレンドリーだということです。すれ違う人から、店員まで、見知らぬ人に挨拶をすることに驚きました。



休日は息子が秋葉原や原宿を案内しました。妹しかいないダグは嬉しかったようです。習志野高校のバスケットの試合を見に行行った時は、既に習志野高校訪問でたくさんの友人を作っていたダグはあちこちで声をかけられ「みんなフレンドリーでとてもいい学校だ」と感激していました。

今回はご近所の方もホームステイを引受けた下さったのでふた家族で夕食を共にしたりカラオケに行ったり賑やかで楽しい交流でした。このような交流がこれから更に広がるように願っています。

次に、授業が楽しいということです。最初は、英語が聞き取れなくて、授業について行けず、落ち込んでいました。でも、このままではいけないと思い、必死に先生のことを聞くようにしたら、次第に分かるようになりました。アメリカの先生は、生徒があきないようどんどん問い合わせきます。それに対して、生徒がすぐ答えるのでとても楽しく受けることができます。ここが日本と違うと思いました。

アラバマに行って一番楽しかったことはホストファミリーとの交流でした。私は今回二家族にお世話をなりました。初めての海外で疲れている私を温かく迎えてくれて嬉しかったです。二家族と共に本当にたくさん思い出を作ることができました。

アラバマでできた思い出は何にも代えられない大切な思い出です。私は英語をさらに勉強して再び来ることを誓いました。もっと勉強して早く会いに行きたいです。



隨 行 記

タスカルーサ学生と共に

通訳部会長 山口 大二郎

姉妹都市提携以来 24 年、年を重ねるごとにお互いの交流は幅も広がり関係も深くなってきました。

今年度高校生 12 名はリサ氏とキャッシー氏に引率され 6 月 10 日に来習し 11 日間滞在しました。学生は日本文化、歴史に関心を持ち日本の家庭生活を体験、将来の友にめぐり合うことなどを望んでおりました。受け入れ側は打ち合わせを重ね、よりニーズにあったプログラムを作成し、アテンドするスタッフも若々しい対応が出来るよう配慮しました。

成田空港で元気な一行を迎える、バスの中では快適に過ごせるように日本の習慣や家の構造などの違いをしっかりと説明。会場での対面はとても和やかで、それぞれのホストの方にお引き渡しをしました。



初日は市長表敬訪問、谷津バラ園、谷津干潟、ららぽーとへ。東京研修では皇居、明治神宮を見学するに当たり、少しでも理解してもらおうと地図や年表を渡し簡単な歴史の流れを説明しましたが生憎雨の中、印象は今一盛り上がりませんでした。

今回は青少年交流に重点を置き接点の場を多く設定しました。歓迎会で習志野高校の学生を紹介、続いて習志野高校訪問、バス旅行、ディスカッションにも参加してもらいました。文教都市を代表する千葉工業大学では産業用ロボット、人間を助けるロボットの将来性についてレクチャーを受け、操縦にもトライしました。

TEC は日本を代表するエンジニアリングの会社で支店は全世界を網羅します。会社の事業内容についてのプレゼンテーションがあり、これから自分の進路を探す上でも大いに参考になると思われます。



富士山旅行の当日は大粒の雨がフロントガラスを叩き、何を話しても沈んでいました。大月近くに来ると晴れ間が見え始め、皆の祈るような気持ちがかなったようでした。五合目まで一気に上り残雪の山頂をバックに皆で記念写真に納まりました。

横浜のウォーターフロントを開発した「みなとみらい」はサンフランシスコに通じるところがあります。ベイクルーズで海側から眺めるランドマークタワーやベイブリッジは別世界を思わせます。昼は中華街へエキゾチックな町並がよほどお気に召したらしく、自由時間を延長することになりました。





学生にとり習志野高校の1日はプラスバンド演奏、授業参観、習字体验などが一番感動したようです。

新しい試みの日米学生によるディスカッションは、若者らしく音楽、ファッション、スポーツの話で盛り上りました。学生達が帰国しホストファミリーの方々とお話しする機会がありました。それぞれの忙しい中、大変な毎日だったに違いありません。それにもまして、ホストの皆さんから学生達と楽しい感動のひと時を共有できたと感想を頂きました。インターナショナルな親善交流が出来たのではないかと思います。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

スポーツ交流 青年委員会

陳 義強

タスカルーサ市青少年訪問団を迎えて、6月12日土曜日の午後、市役所前体育館において、青年委員会主催のスポーツ交流会が行われました。青少年等40名が参加し、バスケットの対抗戦を楽しみ、青少年訪問団との友情を温めることができました。

タスカルーサ青少年訪問団の来訪を、私たち NIA 青年委員会はとても楽しみにしていました。スポーツ交流会は NIA 青年委員会にとっても2年に一度の大イベントです。習志野市スポーツ振興協会に協力をお願いし、秋山さんと坂中さんに最初から最後までサポートして頂きました。タスカルーサの青少年とスポーツをとおして交流出来たのも皆様のお陰と心から感謝しています。おかげさまで無事に終えることができました。

また、当日参加された習志野高校のバスケット部の監督や部員の皆様、ご協力有り難うございました。部員の皆様が随所で見せた優れ技が光って見え、対抗試合を楽しいものにしてくれました。これからますますのご活躍を期待したいと思います。頑張ってください。



お友だちの紹介とふれあい掲示板 日本語学習委員会

田中 芳恵

こんにちは。今日は、土曜日に日本語の勉強をしている、小学生・中学生のお友だちを紹介します。あなたの知っているお友だちがいますか？ そして私たちのなかまになりたいお友だちがいたら、ぜひ習志野市国際交流協会に連絡くださいね。



日本語学習委員会では、日本語を学習する場としてだけではなく、会員一人一人の声を発信する機会

を設けるために、「NIA ふれあい掲示板」を事務局の入口横に設置しています。毎月「ふれあい掲示板 NEWS」も発行しています。みなさんも、どんどん利用してくださいね！ みなさん自身や、みんなのまわりで、こんな声を聞いたことはありませんか？

* 子供が大きくなっているらなくなったランドセル・子供服・ベビー用品・絵本・教科書、買換えや引越しで不要になった電気製品・家具・食器などまだ使えるので必要な人に使ってもらいたい。

* 自分の国の恵まれない人たちに、古着や文房具をおくって、少しでも自国の役に立ちたい。

* 病院・子供の学校に行きたいけれど、日本語が不自由だから誰か一緒に来てくれないかしら

* 日本人の友達が欲しい！ 一緒に日本語を勉強する友だちが欲しい！ ・・・等々。

こんなときはぜひ「NIA ふれあい掲示板」を利用して下さい。NIA ふれあい掲示板の利用方法や、もっと詳しいことを知りたい方は、事務局に問い合わせしてくださいね。

赤いパンダナサンバチーム 交流委員会

吉田 武

これ以上の天候は、望めないほどの天候に恵まれた「習志野市民まつり」だった。今年はパレードの「とり」をサンバチームが担当するので、参加団体の意気込みは、凄まじいものであった。私もNIAの編成チームが気にかかっていたが、今年はサンバ委員長の立場から本部テントを離れられなくなった。

日が沈みかけた19時過ぎ、市役所前坂の頂上からスタート地点が見え、それは蟻の集団のようであったが、スタートするとその集団はあたかも沖合からやってくる、ウエーブそのものだった。

沿道の左右は人でいっぱいだった。その花道の沿道をサンバの音楽にあわせてやってきた赤いパンダナの国際色豊かなNIAチームを（総勢21名内外外国人12名）見て疲れがいっとんに吹き飛んだ。スタッフの皆さんご協力ありがとうございました。今年は会員の木村暉子さんに、サンバの審査員として参加していただきました。ありがとうございました。



世界の料理教室

文化委員会

日野 陽子

5月20日に菊田公民館で「世界の料理教室」を開催しました。雨の降る肌寒い日でしたが16名の参加者がありました。

今回は「スペインの家庭料理」を当協会会員のカルメン・モレノ・カンテロさんに教えて頂きました。スペイン料理と言えば、まずパエリアを思い浮かべますが、期待通りシーフードパエリアとスペインオムレツ、そしてサルモレロの3品を教わりました。サルモレロと言う料理名を初めて耳にされた方も多いのではないでしょうか。これはトマト、フランスパン、ニンニクを細かく切ってオリーブオイルと一緒にミキサーで混ぜたものをフランスパンにたっぷり塗りスライスした卵と生ハムをのせて完成、とてもおいしい一品でした。

カルメンさんは、2008年9月に来日されましたが日本語がとてもお上手です。旅行がお好きで京都、奈良、広島、長崎など日本各地を旅行されたそうです。北海道や沖縄にも行ってみたいとおっしゃっていました。

折り鶴講習

文化委員会

日野 陽子

日本の伝統文化である折り紙は、今や海外でもORIGAMIとして子供はもちろんのこと、大人にも大変親しまれて世界共通語になっています。日本人の誰もが子供の頃に「兜」や「鶴」「風船」等を折って遊んだ思い出を持っているのではないでしょうか。寛政9年に出版された「秘伝千羽鶴折形」は49種類の折り鶴を紹介しており、これが現存する世界最古の折り紙の文献とされています。

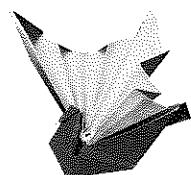
このように歴史のある伝承折り紙を今回の文化セミナーで取り上げました。講師に折り紙グループ「千羽鶴」代表の湯川徳子先生をお招きして7月31日に津田沼サンロードで「寿鶴」を教えて頂きました。広報習志野で募集し19名の方が参加されました。

まず大きい折り紙で練習して、仕上げは金と赤の両面折り紙で豪華な「寿鶴」が出来あがりました。先生とお弟子さん4名の熱心なご指導のもと完成した自分の作品をうれしそうに眺めている皆さんの顔がとても印象的でした。残り時間で「こま」も作製。3枚の折り紙を組み合わせて回すと微妙な色合いが現



さて、大好評だったスペイン料理ですが、かなりの量のオリーブオイルを使いました。いつもこういう料理を食べておられるカルメンさんはスラッとした美しい方です。そこで質問は「何故そんなにスマートなのですか」ということ。毎日ジムに行っているとか、オリーブオイルは体にとても良いなどと話して下さいました。

おいしいお料理を教えて下さったカルメンさんと、お手伝いをして下さったお友達の平岡みどりさんにお礼申し上げます。



れて楽しい作品でした。

又、先生が折られた「舟」「可愛い靴」「おしゃれな洋傘」などを見せて頂いて、その繊細な作品に見入っている人、自分も習って折ってみたいと言う人、是非また続きをと希望される人、それぞれの思いを残して終わりました。

湯川先生、お手伝いをして下さった皆様、本当に楽しい講習会を有難うございました。



韓国留学

青年委員会 細根 翔平

こんにちは。青年委員会の細根翔平です。僕は現在韓国にある高麗大学という学校の語学研修施設で韓国語を勉強しています。創立100年を超える歴史のある学校で、学生数は3万人を超えます。校舎は習志野市役所から津田沼小学校くらいまであります。それでは学校紹介はこれくらいにして韓国での生活について少し触れたいと思います。

留学というと普通住む家を決めてから出発するでしょう。しかし僕はそうではありませんでした。韓国では歩いて家を探し、空き部屋があればその場でサイン。お金さえ払えばその日にすぐ部屋を契約できます。面倒な契約は何一つありません。本当に名前を書くだけです。最初はつたない韓国語で部屋探しをしました。「窓」という単語すら知らなかったので本当に部屋探しには苦労しました。部屋が決まるまでの10日間はホステルで過ごしていましたが、外国人用の宿なので韓国にいるのに英語しか使いませんでした。いろんな国の人と関わるのは自分が日本にいようがいまいが関係はないですが、タイ、アメリカ、パキスタン、バスク（スペイン）、ドイツ、香港の友達と出会えたのも良い経験です。一生懸命探した家も決して住みやすいとはいえないかもしれません。しかし今ではその生活にも慣れ、ひとりたくましく暮らしています。

語学の授業の様子ですが、韓国語の授業はネイティブ教師一人と生徒10人ほどで行われます。生徒はほとんどが中国人！あとは日本、アメリカ、モンゴル、タイなどの国の人人が2割強います。中国人が本当に多いので今は中国語も少しずつ勉強しています。

僕の専攻は英語ですが韓国留学にきました。その決断は決して間違いではなかったと思います。今は英語でも韓国語でもある程度コミュニケーションができるようになり、視野がとても広がったように思います。使える言語が増えるということは自分の中の視点が増えるということです。機会があれば新しい言語にチャレンジしてみるのもいいかもしれません。



【投稿記事】

みんな違って みんないい

本大久保 ジンゴアキ

金子みすずさんの「わたしと小鳥と鈴と」という詩は、みなさんもよくご存じだと思います。

わたしが両手を広げても
お空はちっとも飛べないが

飛べる小鳥はわたしのように
地べたを早くは走れない

わたしが体をゆすっても
きれいな音は出ないけれど

あの鳴る鈴はわたしのように
たくさん歌は知らないよ
鈴と小鳥と それからわたし
みんな違って みんないい



たくさんの外国人が、たくさんの外国人の子供たちが、みなさんのまわり、習志野市・近隣市にいます。国が違えば、言葉も、文化も、習慣も違います。日本人同士でも育った環境でいぶんと自分とは違っているなあと思うことがあると思います。だからといって、自分と違っていることで「いることすら認めない」とか「無視する」あるいは「不公平に扱う」とか「オミットする」。そんなことはあってはならないことです。大人でも自分の考えと合わない人や、違った意見を持った人を、毛嫌いし仲間はずれにする人がいます。それはたいへんかなしいことですし、愚かなことです。それぞれのちがいや共通するところを知って、それが特徴であり、個性であると認め合うことが、「みんな違って みんないい」ということだと思います。

近所に住む外国人には日本語や日本の暮らし、規則や約束をわかってもらい、私たちもその人たちから知らないことを教わりましょう。私たちはその人たちに仲間に入ってもらうために声をかけましょう。そしてわたしたちみんなが、わたしたちのまわりにはいろんな人がいて、いろんな国や文化があることを知り、わかりあい「みんな違って みんないい」の心をもちたいものです。

スクウェア 第91号

発行 2010年9月1日

習志野市国際交流協会

発行責任者 崎山征雄

編集責任者 高山進三郎

〒275-0016

千葉県習志野市津田沼5-12-12

サンロード津田沼4F

TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>

〈Eメール〉 nia@seaple.ne.jp